

グローバル人材育成と 今後の可能性

資料3

公益財団法人AFS日本協会
理事・事務局長
河野 淳子



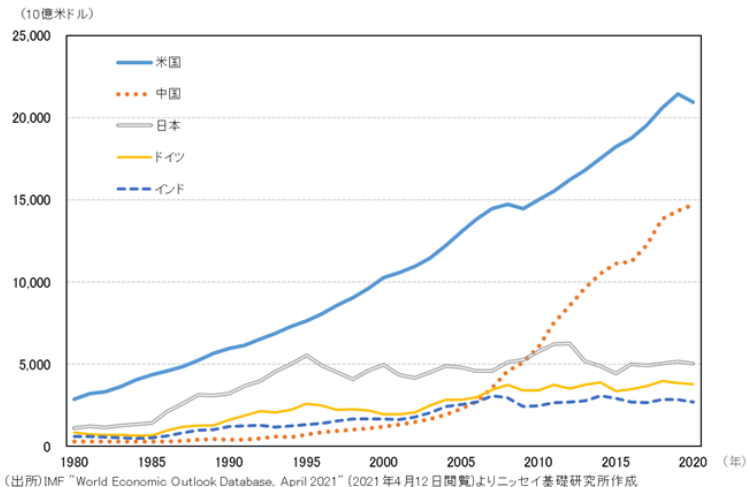
現状認識の共有

- グローバル人材への期待の高まり
- 次世代に求められるグローバル人材
- 2030年に向けた教育ビジョン

グローバル人材への期待の高まり

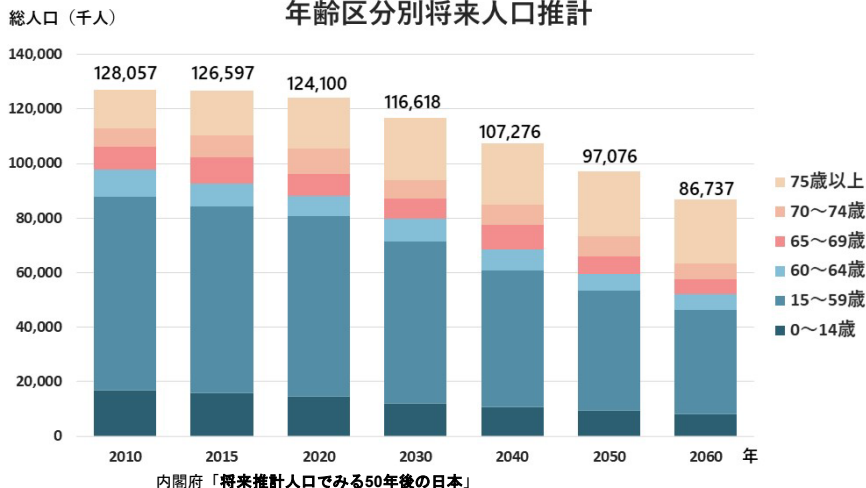
経済の停滞

図：名目GDP(為替レート(米ドル換算))の上位5カ国(米国・中国・日本・ドイツ・インド)の推移



労働人口の減少

年齢区分別将来人口推計



グローバル人材の定義

「グローバル人材とは、世界的な競争と共生が進む現代社会において、日本人としてのアイデンティティを持ちながら、広い視野に立って培われる教養と専門性、異なる言語、文化、価値を乗り越えて関係を構築するためのコミュニケーション能力と協調性、新しい価値を創造する能力、次世代までも視野に入れた社会貢献の意識などを持った人間であり、このような人材を育てるための教育が一層必要となっている。」

「産学官によるグローバル人材の育成のための戦略」平成23年4月28日 産学連携によるグローバル人材育成推進会議

次世代に求められるグローバル人材

産業界の視点

人材採用において世界の企業が最も高く評価するスキル

- 他者への敬意を示す
- 信頼関係の構築
- 多様なチームで効果的に働く
- 新しいアイデアや考え方を受け入れることができる
- 業務に関連する資格

出典 British Council/Ipsos “Culture at Work” 調査は、9カ国367社の大企業に対して実施 2013年

次世代に求められるグローバル人材

需要が高まっている職種10

- データアナリストや科学者
- AIや機械学習のスペシャリスト
- ビッグデータスペシャリスト
- デジタルマーケティング・戦略スペシャリスト
- プロセス・オートメーションスペシャリスト
- ビジネス開発スペシャリスト
- デジタルトランスフォーメーション・スペシャリスト
- 情報セキュリティアナリスト
- ソフトウェアやアプリケーションの開発
- モノのインターネットスペシャリスト など



求められるスキル

- イノベーションと創造性
- グローバル・シチズンシップと市民としての責任
- デジタルリテラシーとデクステリティ
- 他者、自己との関係

など

VUCA時代に「私たちが実現したい未来」 ＝ウェルビーイングの実現をめざす教育

- 変化を起こすために自分で目標を設定し、振り返り、責任をもって行動する能力（生徒エージェンシー）の開発
- 教師が一方向的に指導するのではなく、親や教師、コミュニティ等と生徒が互いに教え合う、学び合うプロセスを共につくる関係性（共同エージェンシー）の醸成



出展： OECD, Future of Education and Skills 2030

将来予測が難しいVUCA時代

→ 多様性を享受し自ら考え行動を起こせるグローバル市民育成のニーズが高まる

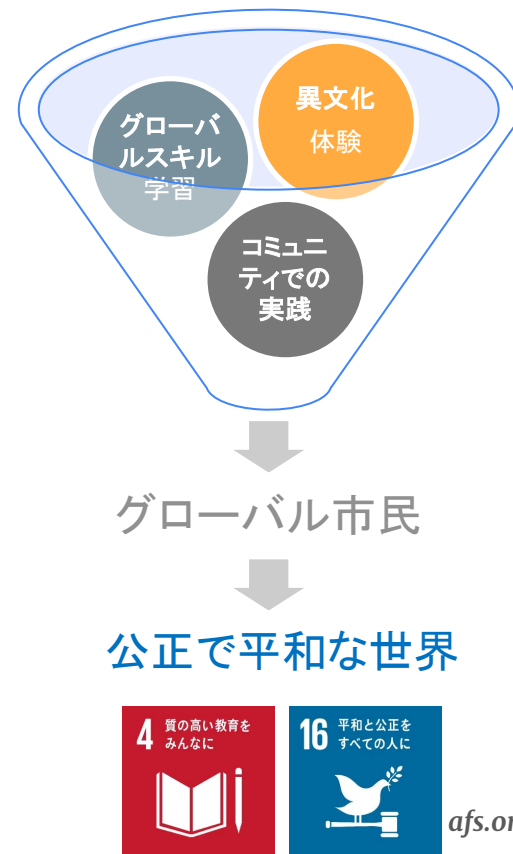
グローバル市民教育:実践例の紹介

- AFSについて
- 教育事業のスキーム
- 教育目標と実践
- 異文化体験の効果検証
- デジタル教育の可能性
- 今後に向けて

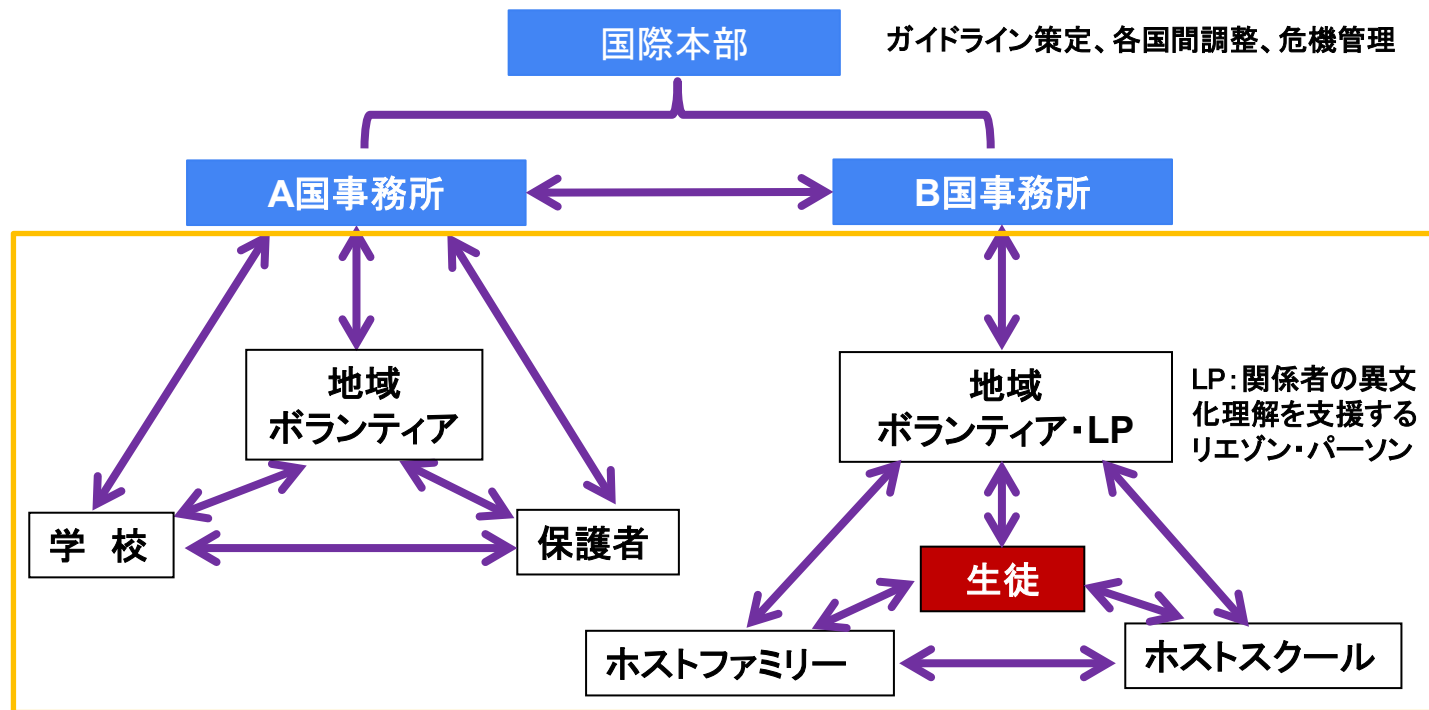
AFSについて



- 世界大戦時に戦場で負傷兵を救護輸送したアメリカの青年ボランティアの活動を経て1947年に交換留学制度を発足。世界90か国・地域で50万人の青少年に異文化体験学習の機会を提供。2015年よりUNESCOオフィシャルパートナー
- 日本は1954年に文部省（当時）より選考された8名の高校生の渡米を皮切りに2万人以上の青少年が世界各国へ留学。海外から日本への留学とあわせて年間1千人規模の交流を実施。2011年より公益財団法人
- **10代の若者がホームステイをしながら地域の学校に通学し、周囲に支えられながら異文化摩擦を乗り越えていく。共感力、違いの尊重、柔軟性を育む生涯学習を通じ、自ら考え、社会で行動できるグローバル市民を育成し、より公正で平和な世界の実現をめざす**



異文化理解教育事業のスキーム



有給の専任職員

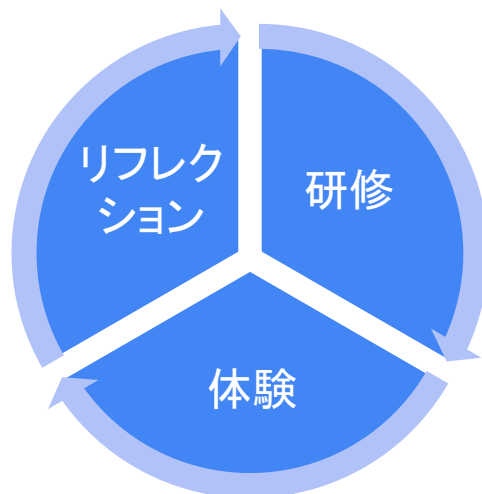
ボランティアによる運営

👉はA国出身生徒がB国へ留学した場合の支援体制図

異文化理解教育事業のスキーム

キーワード

- グローバルな越境学習
- 旅行× 教育◎
- コミュニティでの生活体験
- 全員が「参加者」
- 「伴走者」となる地域ボランティア
- 研修とサポート
- マンスリー・リフレクション

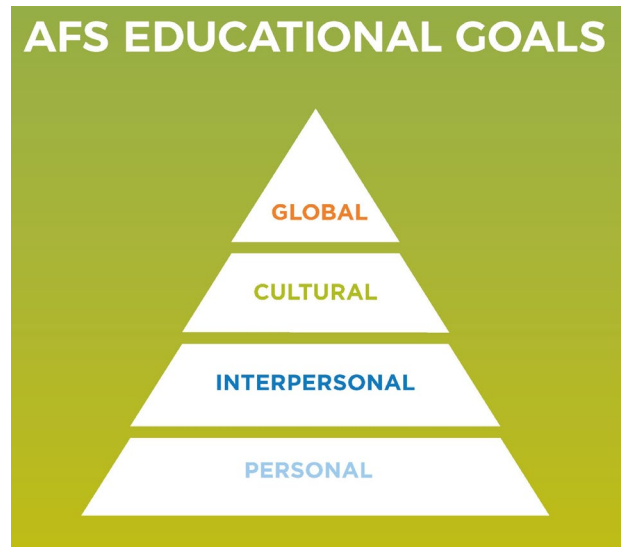


AFSの教育目標(1984-)

活動のバックボーンとなる教育目標（4領域16目標）を掲げ、学習者がグローバル市民になるために必要な知識、スキル、態度を身につけられるよう支援

4つの領域

1. **Personal:** 個人の価値観とスキル
2. **Interpersonal:** 対人関係の構築
3. **Cultural:** 異文化に対する知識と感受性
4. **Global:** グローバルな問題意識



16の教育目標

個人の価値観とスキル

1. 自己認識
2. 創造的思考
3. 批判的思考
4. モチベーションと自信
5. 理想や価値観で自己定義する

対人関係の構築

6. 共感力
7. 柔軟性・ソーシャルスキル
8. コミュニケーション能力
9. 他者への責任意識と集団への貢献

異文化に対する知識と感受性

10. 異文化間の友好関係を築く
11. 文化に対する知識と認識
12. 外国語能力と非言語コミュニケーション力
13. 異文化での対応力

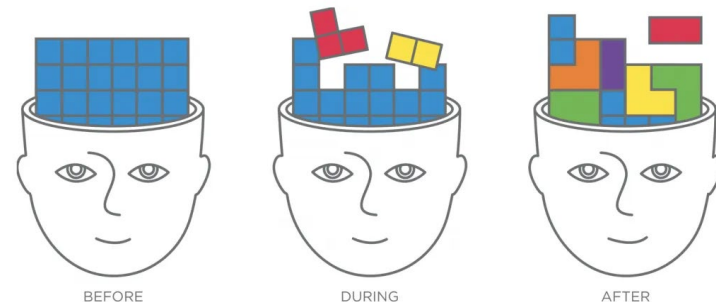
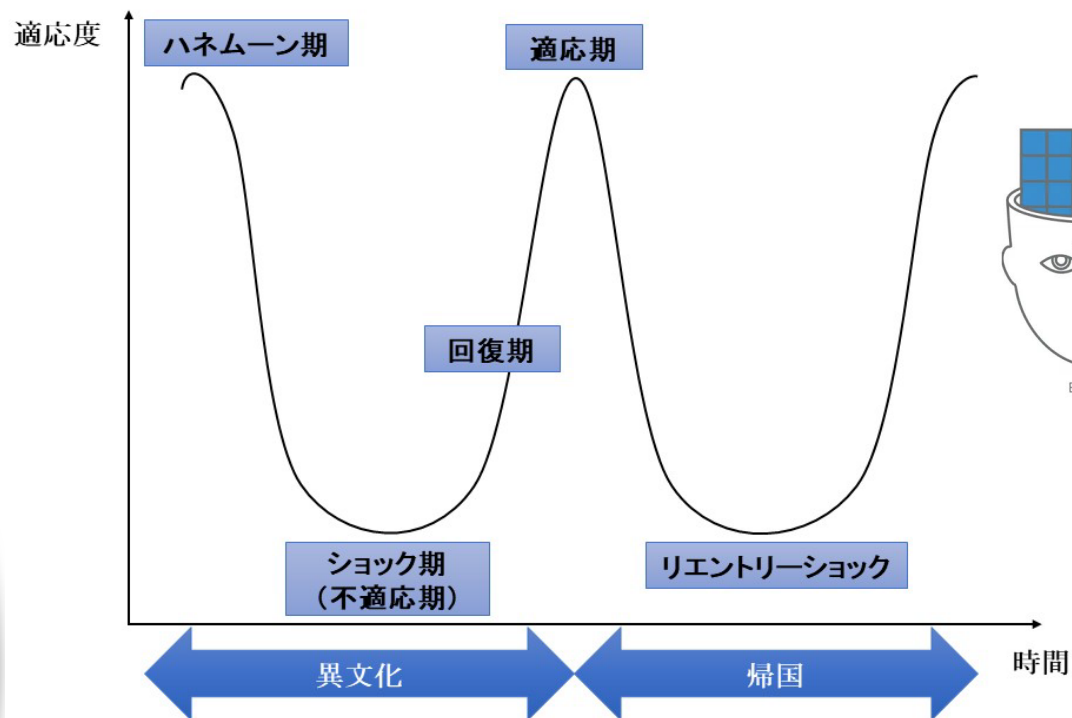
グローバルな問題意識

14. 世界情勢への関心と興味、自分の選択が他者に与える影響に対する認識
15. 文化的相互依存の認識
16. グローバル社会への貢献に対する責任意識

教育目標到達のための研修カリキュラム

	領域	教育目標	留学前	到着時	留学前半	留学中	帰国前	留学後
1	個人の 価値観 とスキル	自己認識	✓		✓	✓	✓	✓
2		創造的思考	✓		✓			
3		批判的思考	✓		✓		✓	✓
4		モチベーションと自信	✓	✓	✓			✓
5		理想や価値観で自己を定義する	✓	✓	✓			✓
6	対人関 係の構 築	共感力	✓	✓	✓			
7		柔軟性・ソーシャルスキル				✓		
8		コミュニケーション能力	✓		✓	✓		
9		他者への責任意識と集団への貢献			✓	✓		
10	異文化 に対する知識 とる感 受性	異文化間の友好関係を築く	✓	✓				
11		文化に対する知識と認識	✓		✓	✓	✓	
12		外国語能力と非言語コミュニケーション力	✓					
13		異文化での対応力	✓		✓	✓	✓	✓
14	グロー バルな 問題意 識	世界情勢への関心と興味、自分の選択が他者に与える影響に対する認識	✓					✓
15		文化的相互依存の認識				✓		✓
16		グローバル社会への貢献に対する責任意識			✓	✓		✓

異文化適応曲線と適応モデル



生徒は、生まれ育った文化に影響を受けた価値観と共に旅に出て、自己肯定感を高めながら異文化摩擦を乗り越え、新しい価値観を手に入れ変化する。これが生涯にわたり繰り返し替えされる。生徒を受け入れるコミュニティにも同様の変化がおきる。

異文化体験の効果検証

- 調査対象：1947年～2018のAFS留学体験者80カ国10,500人
- 収集期間：2018年11月～2019年3月
- 方法：オンライン調査



高校時代の海外留学がその後の人生とキャリアにもたらす影響は大

高校留学に参加したことで、

87%



アクティブな
グローバル市
民になれた

60%



ボランティア
活動に参加す
るようになった

90%



グローバルな
環境で働く準
備ができた

79%



早いスピード
でキャリアア
ップできた

異文化体験の効果検証

■ 2004 –2012 AFS教育的インパクト調査
自己肯定感、異文化対応スキル、対人スキル・コミュニケーションスキル、問題解決力、語学力、向上心  [報告書](#)

■ 2018 OECD学習到達度調査-PISA
教室の外での異文化体験の教育的効果  [報告書](#)

■ 2019 AFSアルムナイ調査
生涯に与えるインパクトの大きさ  [報告書](#)

<https://afs.org/research/>

OECD : PISA Global Competence
Assessment Report



“High school students who have participated in the AFS program have higher levels of intercultural competence, experience less anxiety when interacting with people from other cultures and have more friendships with people from other cultures. They also have greater knowledge of the host country and greater fluency in the language of the host country. More important, students maintain these advantages into their adulthood.”

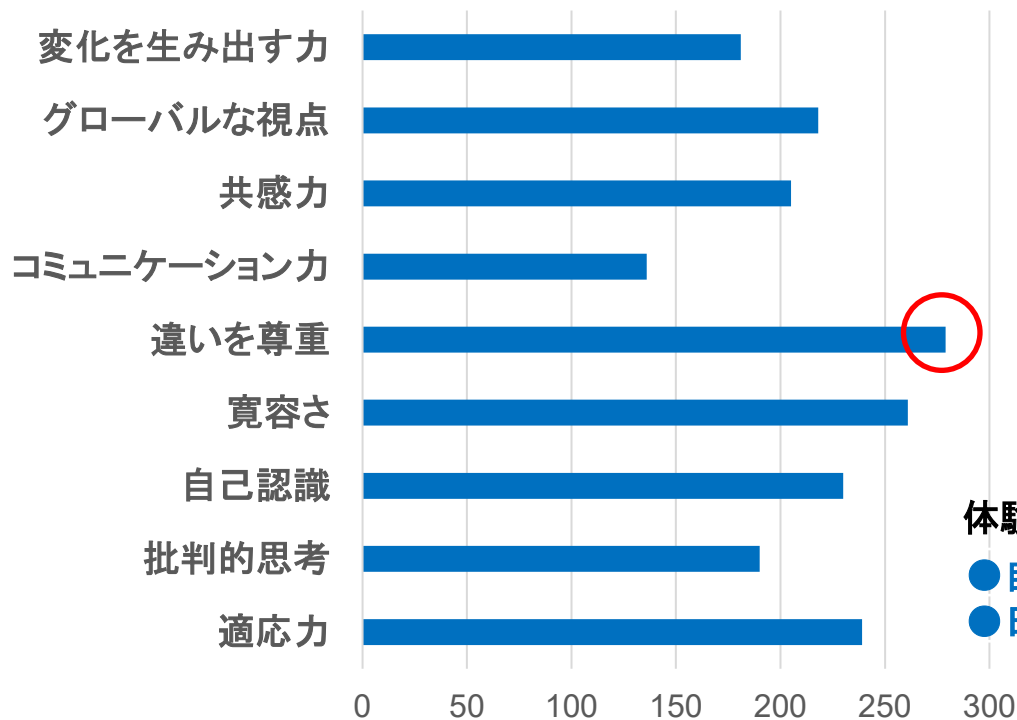
「AFSプログラムに参加した高校生は、異文化間能力レベルが高く、異文化の人々と交流する際の不安が少なく、異文化の人々との友情が深まっている。また、受入国に関する知識が豊富で、受入国の言語にも流暢である。さらに重要なことは、学生はこれらの利点を大人になってからも維持するということです。」

Source: OECD (2020) “Are Students Ready to Thrive in an Interconnected World?”

afs.org

異文化体験の効果検証 - 日本で高校生活を体験した海外の生徒は

体験によって伸びたと感じる自分のスキル



👉 留学生・ホストファミリーの声
インタビュー動画 YouTube

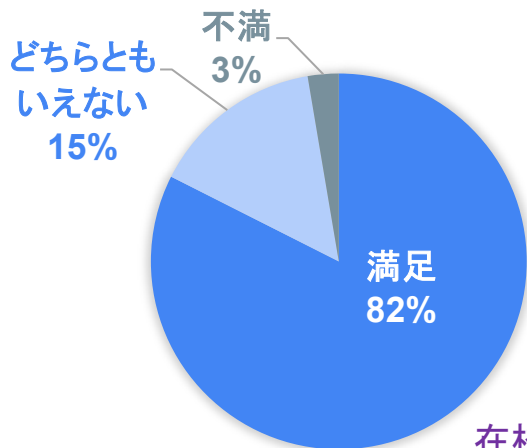
体験を終えてどう感じてるか？

- 自分は世界の一員だと感じている 95%
- 日本文化をより身近に感じている 94%

異文化体験の効果検証 - 海外の高校生を受け入れた日本の高等学校は

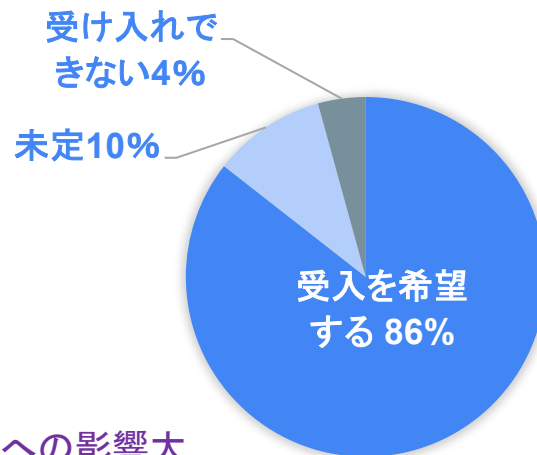


海外留学生受入体験への総合的評価



在校生や教員、学校への影響大

今後の受入協力



在学生や教員への影響に対する高校側のコメント:

「留学生の学習意欲の高さに影響を受けた」「校内の留学希望者が増えた」「在校生が日本文化について調べるようになった」「クラスの約半分以上が留学に興味をもった」「職員間での文化についての話題が増えた」「留学生の出身校との姉妹校提携を考えている」など受け入れを機会に校内に変化が生まれたという肯定的な意見多数

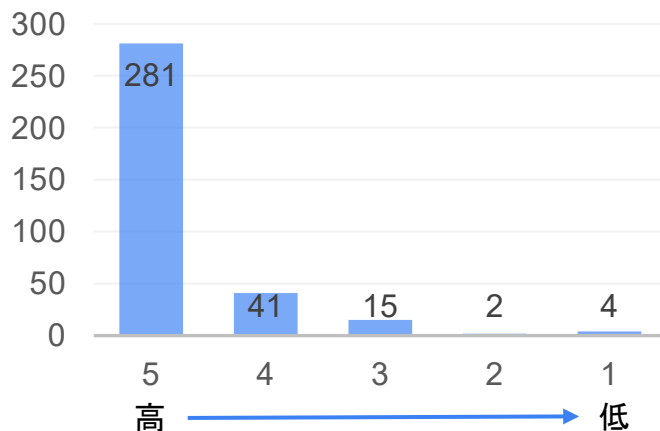
afs.org

異文化体験の効果検証 - 日本で高校生活を体験した海外の生徒は

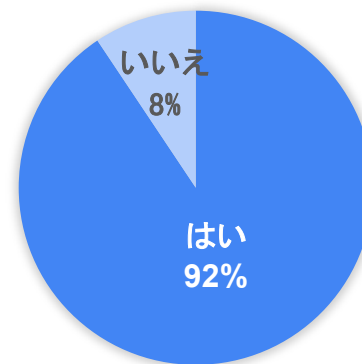


高校時代に日本に留学した生徒の多くは、日本の大学への進学を希望

再留学希望の程度



日本の大学等への再留学を希望している



2018年～2021年に日本の高校に6～8か月留学したアジアからの生徒345人

一方、外国人留学生の国内就職率の推移（独立行政法人日本学生支援機構調査）によると日本への就職率は30%前後で目標未達である点が気になる。日本社会の包摂性と関係があるのだろうか。

afs.org

©2021 AFS Intercultural Programs, Inc.

デジタル教育の可能性

- 留学体験の充実
- 異文化学習機会へのアクセス拡大
- 世界共通のカリキュラムへの対応
SDGs, Global Competency, 21世紀型スキル、など



グローバル・コミュニティが身近に

AFS Global You Virtual Exchange Impact Study (2021)



パンデミックで留学の機会を失った世界の高校生に5週間のバーチャルプログラムを提供。その後の調査結果によりバーチャルプログラムが高校生のグローバルコンピテンスの向上に寄与することが実証された。

 [調査報告](#)



オンライン学習内容の例

- 文化が価値観や意思決定に与える影響を学ぶ
- 他人の目を通して自分を見る力を身につける
- 思い込みに挑戦する
- ステレオタイプや国際問題に対する見方を広げる
- 効果的、適切に視点を変える方法を学ぶ
- 現実には起きている課題への革新的な解決方法を見出すなど

Let's
dive !

DESCRIBE 何を見たか
INTERPRET どう見えたか
VERIFY 見方は正しいか
EVALUATE 振り返る



誤解と偏見を生まないためのトレーニング



デジタルとリアルの組み合わせによる高校留学プログラムの事例 Student Learning Journeyカリキュラム



出発前、留学中、帰国後を通じて、すべて生徒が、「ローカル＋リアル体験」と「グローバル＋オンライン研修」を交互に体験し、異文化への理解を深める

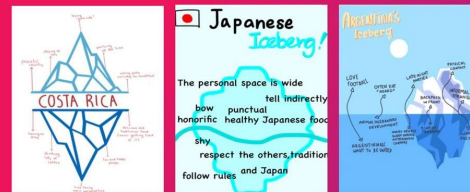
オンライン研修 指導項目

ソーシャル・イノベーション／文化理解／ステレオタイプと一般化／**D.I.V.E**／コミュニティとの関わり／文化次元／コミュニケーションスタイル／ソーシャルインパクト／レジリエンス／不平等の理解／マイクロアグレッション／寛容で包摂的な社会

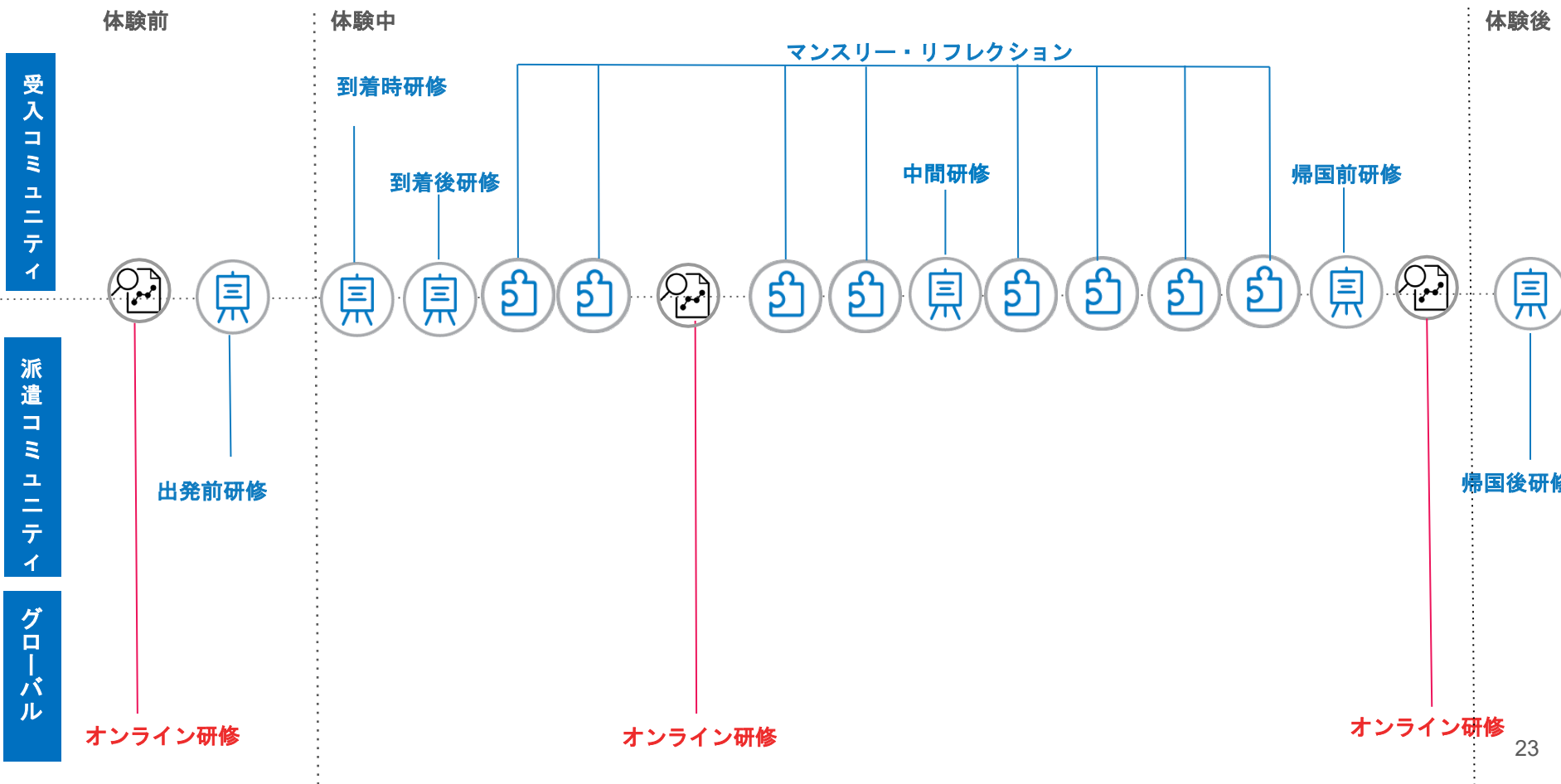
指導方法

個別学習＋ライブセッション

Student Learning Journey Online



Student Learning Journey



グローバル人材育成 グローバル市民教育

VUCAの時代を生き抜く教育

多様な価値観と共存しながら自ら考え行動を起こせる責任ある市民をいかに多く日本の教育から生み出すことができるのか。また、それを可能にする共同エージェンシーの醸成をどうはかれるか。

- グローバルな越境学習の勧め
- 高等学校での海外留学生受け入れ促進
- 地域社会と一体化したグローバル市民教育の推進
- デジタルとリアル体験ミックス型による学習内容の充実化



- 単位認定、単位互換の柔軟性*
- 異文化適応を支援する教員やボランティアの育成
- 産学官NPOの地域における有機的な連携
- 教育DXの推進

* 学校教育法施行規則第93条第2項「校長は、留学することを許可された生徒について、外国の高等学校における履修を高等学校における履修とみなし、36単位を越えない範囲で単位の修得を認定することができる」とあるが、現状では、この制度の運用は各校により様々である。異文化での学びをより積極的に評価し、復学が円滑に進むような国全体としての取り組みならびに機運醸成が望まれる。

ありがとうございました。

公益財団法人AFS日本協会

河野淳子／KAWANO, Junko

AFS Intercultural Programs, Japan

E-mail: junko.kawano@afs.or.jp

Home Page : <https://www.afs.or.jp/>

Social Media : [Twitter](#) [Instagram](#) [Facebook](#) [Youtube](#)